自己評価基準書（生理学的検査）

臨地実習施設名：

分野別指導者：

学生氏名：

実習期間：　　　　　　　 年　　　月　　　日（　　　）　　～　 　　年　　　月　　　日（　　　）

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等：共通項目

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 臨地実習の  注意・態度・心得付帯事項等 | 医療人として相応しい身だしなみができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 医療人として相応しい言葉遣いができる | A・B・C・D・E |
| 時間や約束事を守ることができる | A・B・C・D・E |
| 臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる | A・B・C・D・E |
| 実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる | A・B・C・D・E |
| 実習に際して目的意識をもって臨むことができる | A・B・C・D・E |
| 実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる | A・B・C・D・E |
| 実習先の患者の本人確認ができる | A・B・C・D・E |
| 守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設などを清潔に保つことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる | A・B・C・D・E |

1.　必ず実施させる行為：生理学的検査

| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| --- | --- | --- | --- |
| 標準12誘導  心電図検査 | 患者の安全に配慮し検査室に誘導できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 患者に心電図検査の一般的な目的を説明できる | A・B・C・D・E |
| 患者に脱衣などの検査準備の指示ができる | A・B・C・D・E |
| 電極を手早く正確に装着できる | A・B・C・D・E |
| 診断に適した波形記録ができる | A・B・C・D・E |
| ペーストや電極の除去などが手際よく行える | A・B・C・D・E |
| 患者へ着衣と検査後の指示ができる | A・B・C・D・E |
| 検査中の容態急変に備えた観察・行動ができる | A・B・C・D・E |
| 心電図検査を対象とする代表的疾患の概要と検査結果の特徴を説明できる | A・B・C・D・E |
| 測定結果を報告書へ正確に記入・転送などができる | A・B・C・D・E |
| 全ての手順をスムーズに行える | A・B・C・D・E |
| 肺機能検査  （スパイロメトリー） | 患者の安全に配慮し検査室に誘導できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 患者に肺機能検査の一般的な目的を説明できる | A・B・C・D・E |
| 患者に検査中の注意点が説明できる | A・B・C・D・E |
| クリップなどの器具を手早く正確に装着できる | A・B・C・D・E |
| 検査中の呼吸の指示がしっかりとできる | A・B・C・D・E |
| 検査器具の除去などが手際よく行える | A・B・C・D・E |
| 検査中の容態急変に備えた観察・行動ができる | A・B・C・D・E |
| 患者へ検査後の指示ができる | A・B・C・D・E |
| 測定結果を報告書へ正確に記入・転送などができる | A・B・C・D・E |

2.　必ず見学させる行為：生理学的検査

| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| --- | --- | --- | --- |
| ホルター心電図  検査のための  検査器具装着 | ホルター心電図検査の一般的な目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 各種誘導法の特徴と電極位置を説明できる | A・B・C・D・E |
| 検査中の一般的な注意事項が説明できる | A・B・C・D・E |
| 電極装着中の容態急変に備えた観察・行動について説明できる | A・B・C・D・E |
| 肺機能検査  （スパイロメトリー除く） | 各種肺機能検査の一般的な目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 検査中の一般的な注意事項が説明できる | A・B・C・D・E |
| 検査中の呼吸の指示について説明できる | A・B・C・D・E |
| 肺機能検査を対象とする代表的疾患の概要と検査結果の特徴を説明できる | A・B・C・D・E |
| 検査中の容態急変に備えた観察・行動について説明できる | A・B・C・D・E |
| 脳波検査 | 脳波検査の一般的な目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 検査中の一般的な注意事項が説明できる | A・B・C・D・E |
| 脳波検査を対象とする代表的疾患の概要と検査結果の特徴を説明できる | A・B・C・D・E |
| 検査中の容態急変に備えた観察・行動について説明できる | A・B・C・D・E |
| 負荷心電図  検査 | 負荷心電図検査の一般的な目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 機械・器具などの正しい準備ができる | A・B・C・D・E |
| 検査中の一般的な注意事項が説明できる | A・B・C・D・E |
| 検査中の医師との連携が説明できる | A・B・C・D・E |
| 検査中の容態急変に備えた観察・行動について説明できる | A・B・C・D・E |
| 超音波検査  （心臓）  ・・・続き有  超音波検査  （心臓） | 心臓超音波検査の一般的な目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 検査中の体位変換と呼吸の指示が説明できる | A・B・C・D・E |
| 超音波の基本的性質が説明できる | A・B・C・D・E |
| 検査中の一般的な注意事項が説明できる | A・B・C・D・E |
| 各種測定モードの特徴と検査対象臓器が説明できる | A・B・C・D・E |
| プローブの持ち方など器機取り扱いの注意点が説明できる | A・B・C・D・E |
| 心臓超音波検査を対象とする代表的疾患の概要と検査結果の特徴を説明できる | A・B・C・D・E |
| 検査中の容態急変に備えた観察・行動について説明できる | A・B・C・D・E |
| 超音波検査  （腹部） | 腹部超音波検査の一般的な目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 検査中の体位変換と呼吸の指示が説明できる | A・B・C・D・E |
| 超音波の基本的性質が説明できる | A・B・C・D・E |
| 検査中の一般的な注意事項が説明できる | A・B・C・D・E |
| 各種測定モードの特徴と検査対象臓器が説明できる | A・B・C・D・E |
| プローブの持ち方など器機取り扱いの注意点が説明できる | A・B・C・D・E |
| 腹部超音波検査を対象とする代表的疾患の概要と検査結果の特徴を説明できる | A・B・C・D・E |
| 検査中の容態急変に備えた観察・行動について説明できる | A・B・C・D・E |
| 足関節上腕血圧比（ABI）検査 | ABI検査の一般的な目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 検査中の一般的な注意事項が説明できる | A・B・C・D・E |
| ABI検査を対象とする代表的疾患の概要と検査結果の特徴を説明できる | A・B・C・D・E |
| 検査中の容態急変に備えた観察・行動について説明できる | A・B・C・D・E |
| ABI検査の禁忌を説明できる | A・B・C・D・E |

3. 実施させることが望ましい行為：生理学的検査

　該当項目なし

4. 見学させることが望ましい行為：生理学的検査

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 運動誘発電位  検査 | 運動誘発電位検査の一般的な目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 検査中の一般的な注意事項が説明できる | A・B・C・D・E |
| 体性感覚誘発  電位検査 | 体性感覚誘発電位検査の一般的な目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 検査中の一般的な注意事項が説明できる | A・B・C・D・E |

〔評価基準〕

|  |  |
| --- | --- |
| 評価 | 実技評価 |
| A | 他の学生に教えられる |
| B | すべて自分でできる |
| C | ひと言ヒントがあれば自分でできる |
| D | 模範を見せてもらえればその通りに出来る |
| E | 全てを一緒にやってもらえれば出来る |

自己評価基準書（検体検査：血液学的検査）

臨地実習施設名：

分野別指導者：

学生氏名：

実習期間：　　　　　　　 年　　　月　　　日（　　　）　　～　 　　年　　　月　　　日（　　　）

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等：共通項目

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 臨地実習の  注意・態度・心得付帯事項等 | 医療人として相応しい身だしなみができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 医療人として相応しい言葉遣いができる | A・B・C・D・E |
| 時間や約束事を守ることができる | A・B・C・D・E |
| 臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる | A・B・C・D・E |
| 実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる | A・B・C・D・E |
| 実習に際して目的意識をもって臨むことができる | A・B・C・D・E |
| 実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる | A・B・C・D・E |
| 守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設などを清潔に保つことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる | A・B・C・D・E |

1. 必ず実施させる行為：血液学的検査

| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| --- | --- | --- | --- |
| 血球計数検査 | 検体の確認ができる（氏名・抗凝固剤、検体量、凝固、溶血等） | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 機器に検体を間違いなくセットし測定できる | A・B・C・D・E |
| 測定結果が基本的に妥当なデータか判断できる | A・B・C・D・E |
| 測定結果を報告書へ正確に記入・転送などができる | A・B・C・D・E |
| 各項目の基準範囲が説明できる | A・B・C・D・E |
| 各種貧血・代表的血液疾患の血球計数結果を説明できる | A・B・C・D・E |
| 血球計数機の測定原理の概要が説明できる | A・B・C・D・E |
| 至急検体の対処方法が説明できる | A・B・C・D・E |
| 血液塗抹標本  作成と鏡検 | 検体の確認ができる（氏名・抗凝固剤、検体量、凝固、溶血等） | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 塗抹標本の良悪とその原因が説明できる | A・B・C・D・E |
| 良好な塗抹標本が作製できる（染色含む） | A・B・C・D・E |
| 普通染色の原理が説明できる | A・B・C・D・E |

2. 必ず見学させる行為：血液学的検査

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 精度管理 | 標準作業手順書(SOP)の目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 異常反応やパニック値への対応について説明できる | A・B・C・D・E |
| 外部精度管理の種類とその必要性を説明できる | A・B・C・D・E |
| 代表的な内部精度管理の種類と方法について説明できる | A・B・C・D・E |
| 内部精度管理のフローと意義を説明できる | A・B・C・D・E |
| メンテナンス  作業 | 日々に行うメンテナンスの目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 定期的なメンテナンスの項目と必要性を説明できる | A・B・C・D・E |

3. 実施させることが望ましい行為：血液学的検査

| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| --- | --- | --- | --- |
| 血栓・止血検査 | 検体の確認ができる（氏名・抗凝固剤、検体量、検体凝固など） | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| PT、APTT検査の原理を説明できる | A・B・C・D・E |
| PT、APTT検査の用手法と装置分析の違いを説明できる | A・B・C・D・E |
| PT、APTT検査結果の解釈が出来る | A・B・C・D・E |
| 出血時間について、原理と結果解釈について説明できる | A・B・C・D・E |
| FDP、Dダイマーの臨床的意義が説明できる | A・B・C・D・E |
| DICの病態と検査が説明できる | A・B・C・D・E |

〔評価基準〕

|  |  |
| --- | --- |
| 評価 | 実技評価 |
| A | 他の学生に教えられる |
| B | すべて自分でできる |
| C | ひと言ヒントがあれば自分でできる |
| D | 模範を見せてもらえればその通りに出来る |
| E | 全てを一緒にやってもらえれば出来る |

自己評価基準書（検体検査：尿・糞便等一般検査）

臨地実習施設名：

分野別指導者：

学生氏名：

実習期間：　　　　　　 年　　　月　　　日（　　　）　　～　 　　年　　　月　　　日（　　　）

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等：共通項目

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 臨地実習の  注意・態度・心得付帯事項等 | 医療人として相応しい身だしなみができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 医療人として相応しい言葉遣いができる | A・B・C・D・E |
| 時間や約束事を守ることができる | A・B・C・D・E |
| 臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる | A・B・C・D・E |
| 実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる | A・B・C・D・E |
| 実習に際して目的意識をもって臨むことができる | A・B・C・D・E |
| 実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる | A・B・C・D・E |
| 守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設などを清潔に保つことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる | A・B・C・D・E |

1.　必ず実施させる行為：尿・糞便等一般検査

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 尿定性検査  （機器判定） | 検体の確認ができる（氏名、性状、検体量等） | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 色調等の観察が実施できる | A・B・C・D・E |
| 試験紙を正しく取り扱い検体を測定できる | A・B・C・D・E |
| 測定結果を報告書へ正確に記入・転送などができる | A・B・C・D・E |
| 各項目の基準範囲が説明できる | A・B・C・D・E |
| 各項目の測定原理が説明できる | A・B・C・D・E |
| 各項目が異常値となる代表的疾患名と異常値となる機序が説明できる | A・B・C・D・E |

2. 必ず見学させる行為：尿・糞便等一般検査

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 精度管理 | 標準作業手順書(SOP)の目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 測定結果のチェック方法について説明できる | A・B・C・D・E |
| 異常反応やパニック値への対応について説明できる | A・B・C・D・E |
| 外部精度管理の種類とその必要性を説明できる | A・B・C・D・E |
| 代表的な内部精度管理の種類と方法について説明できる | A・B・C・D・E |
| 内部精度管理のフローと意義を説明できる | A・B・C・D・E |
| メンテナンス  作業 | 日々に行うメンテナンスの目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 定期的なメンテナンスの項目と必要性を説明できる | A・B・C・D・E |

3. 実施させることが望ましい行為：尿・糞便等一般検査

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 尿沈渣検査 | 検体の確認ができる（氏名、性状、検体量等） | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 標本を正しく作製できる | A・B・C・D・E |
| 正しい顕微鏡条件で鏡検できる | A・B・C・D・E |
| 正常成分（赤血球、白血球、上皮細胞、塩類・結晶等）の特徴を説明できる | A・B・C・D・E |
| 病的成分（糸球体型赤血球、各種円柱、結晶等）の特徴を説明できる | A・B・C・D・E |
| 正常成分と病的基本成分を判別できる | A・B・C・D・E |
| JCCLSに準拠した方法で報告できる | A・B・C・D・E |

〔評価基準〕

|  |  |
| --- | --- |
| 評価 | 実技評価 |
| A | 他の学生に教えられる |
| B | すべて自分でできる |
| C | ひと言ヒントがあれば自分でできる |
| D | 模範を見せてもらえればその通りに出来る |
| E | 全てを一緒にやってもらえれば出来る |

自己評価基準書（検体検査：輸血・移植検査）

臨地実習施設名：

分野別指導者：

学生氏名：

実習期間：　　　　　　 年　　　月　　　日（　　　）　　～　 　　年　　　月　　　日（　　　）

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等：共通項目

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 臨地実習の  注意・態度・心得付帯事項等 | 医療人として相応しい身だしなみができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 医療人として相応しい言葉遣いができる | A・B・C・D・E |
| 時間や約束事を守ることができる | A・B・C・D・E |
| 臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる | A・B・C・D・E |
| 実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる | A・B・C・D・E |
| 実習に際して目的意識をもって臨むことができる | A・B・C・D・E |
| 実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる | A・B・C・D・E |
| 守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設などを清潔に保つことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる | A・B・C・D・E |

１．必ず実施させる行為：輸血・移植検査

| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| --- | --- | --- | --- |
| 血液型検査  （試験管法）  ・・・続き有  血液型検査  （試験管法） | 検体の確認ができる(氏名・抗凝固剤、検体量、検体凝固など) | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 赤血球浮遊液の適切な濃度と作製法を説明できる | A・B・C・D・E |
| 適切な濃度の赤血球浮遊液が作製できる | A・B・C・D・E |
| 測定用試験管を規則正しく準備できる | A・B・C・D・E |
| 判定試薬を正確に規定量滴下できる | A・B・C・D・E |
| 血球浮遊液を正確に規定量滴下できる | A・B・C・D・E |
| ABO、Rh血液型を正しく判定できる | A・B・C・D・E |
| ABO、Rh血液型測定の適切な反応温度を説明できる | A・B・C・D・E |
| 適切な温度で測定できる | A・B・C・D・E |
| 血液型検査で使用する遠心力と時間を説明できる | A・B・C・D・E |
| 輸血用遠心機を適切に操作できる | A・B・C・D・E |
| 測定結果を報告書へ正確に記入・転送などができる | A・B・C・D・E |
| ABO血液型の日本人の出現頻度が説明できる | A・B・C・D・E |
| ABO血液型の代表的な亜型について説明できる | A・B・C・D・E |
| ABO、Rh血液型の異型輸血について説明できる | A・B・C・D・E |
| 至急検体の対処方法が説明できる | A・B・C・D・E |

２. 必ず見学させる行為：輸血・移植検査

| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| --- | --- | --- | --- |
| 精度管理 | 標準作業手順書(SOP)の目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 血液製剤管理について説明できる | A・B・C・D・E |
| 機器管理方法について説明できる | A・B・C・D・E |
| 外部精度管理の種類とその必要性を説明できる | A・B・C・D・E |
| 代表的な内部精度管理の種類と方法について説明できる | A・B・C・D・E |
| 内部精度管理のフローと意義を説明できる | A・B・C・D・E |

３．実施させることが望ましい行為：輸血・移植検査

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 交差適合試験 | 検体の確認ができる (溶血の有無等) | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 主試験・副試験の一般的な目的・操作法を説明できる | A・B・C・D・E |
| 主試験・副試験を実施し報告書を作成できる | A・B・C・D・E |
| 血液製剤との交差適合試験において、副試験を省く理由を説明できる | A・B・C・D・E |
| IgG感作赤血球を使用する理由を説明できる | A・B・C・D・E |
| 不規則抗体  検査 | 検体の確認ができる（氏名・抗凝固剤、検体量、検体凝固等） | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 不規則抗体検査の一般的な目的・操作法を説明できる | A・B・C・D・E |
| 不規則抗体の反応温度、反応原理を説明できる | A・B・C・D・E |
| 蛋白分解酵素法の特徴を説明できる | A・B・C・D・E |
| 不規則抗体検査を実施できる | A・B・C・D・E |
| 不規則抗体の同定検査を実施できる | A・B・C・D・E |
| アンチグラムにより消去法にて、不規則抗体を同定できる | A・B・C・D・E |
| 適合血を提案できる | A・B・C・D・E |

〔評価基準〕

|  |  |
| --- | --- |
| 評価 | 実技評価 |
| A | 他の学生に教えられる |
| B | すべて自分でできる |
| C | ひと言ヒントがあれば自分でできる |
| D | 模範を見せてもらえればその通りに出来る |
| E | 全てを一緒にやってもらえれば出来る |

自己評価基準書（検体検査：微生物学的検査）

臨地実習施設名：

分野別指導者：

学生氏名：

実習期間：　　　　　　 年　　　月　　　日（　　　）　　～　 　　年　　　月　　　日（　　　）

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等：共通項目

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 臨地実習の  注意・態度・心得・付帯事項等 | 医療人として相応しい身だしなみができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 医療人として相応しい言葉遣いができる | A・B・C・D・E |
| 時間や約束事を守ることができる | A・B・C・D・E |
| 臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる | A・B・C・D・E |
| 実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる | A・B・C・D・E |
| 実習に際して目的意識をもって臨むことができる | A・B・C・D・E |
| 実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる | A・B・C・D・E |
| 守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設などを清潔に保つことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる | A・B・C・D・E |

1. 必ず実施させる行為：微生物学的検査

| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| --- | --- | --- | --- |
| 培養・Gram染色検査  ・・・続き有  培養・Gram染色検査 | 検体の確認（氏名、性状、保存状態等）ができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 微生物検査における無菌操作が実施できる | A・B・C・D・E |
| 検体に適した培地を選択し、症状に合わせた選択培地を追加できる | A・B・C・D・E |
| Gram染色の染色原理と手順が説明できる | A・B・C・D・E |
| Gram染色を適切に実施できる | A・B・C・D・E |
| 顕微鏡を正しく取り扱え、鏡検ができる | A・B・C・D・E |
| 鏡検によりGram陽性・陰性と球菌・桿菌、酵母の鑑別ができる | A・B・C・D・E |
| 代表的な細菌名とその疾患、形態が説明できる | A・B・C・D・E |
| スタンダードプリコーション（標準予防策）を理解できる | A・B・C・D・E |
| PPE(個人防護具）を正しい順序と操作で脱着できる | A・B・C・D・E |
| ＩＣＴ・ＡＳＴの役割、細菌検査室との連携の在り方を体験できる | A・B・C・D・E |
| 血液培養装置の原理を説明できる | A・B・C・D・E |
| 血液培養の結果から次にとるべき対応を説明できる | A・B・C・D・E |
| コロニーからの菌推定ができる | A・B・C・D・E |
| 適切な検体であるか評価できる(採取容器、検体外見、鏡検時） | A・B・C・D・E |

2. 必ず見学させる行為：微生物学的検査

該当項目なし

3. 実施させることが望ましい行為：微生物学的検査

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 同定・薬剤感受性試験 | 全自動同定薬剤感受性検査システムの原理を説明できる | A・B・C・D・E |  |
| 微量液体希釈法からＭＩＣ（最小発育阻止濃度）を求めることができる | A・B・C・D・E |
| ＭＩＣから薬剤耐性菌の判定ができる | A・B・C・D・E |
| ＥＳＢＬ、ＭＢＬ、ＣＲＥ等の薬剤耐性菌の検査方法を説明できる | A・B・C・D・E |
| 遺伝子診断（微生物）を説明できる | A・B・C・D・E |
| イムノクロマト法による同定検査の原理を説明できる | A・B・C・D・E |
| 代表的な抗菌薬適正使用について説明できる | A・B・C・D・E |
| 性状確認培地、カタラーゼ試験、オキシダーゼ試験等の同定法を説明できる | A・B・C・D・E |

〔評価基準〕

|  |  |
| --- | --- |
| 評価 | 実技評価 |
| A | 他の学生に教えられる |
| B | すべて自分でできる |
| C | ひと言ヒントがあれば自分でできる |
| D | 模範を見せてもらえればその通りに出来る |
| E | 全てを一緒にやってもらえれば出来る |

自己評価基準書（検体検査：病理学的検査）

臨地実習施設名：

分野別指導者：

学生氏名：

実習期間：　　　　　　　 年　　　月　　　日（　　　）　　～　 　　年　　　月　　　日（　　　）

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等：共通項目

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 臨地実習の  注意・態度・心得・付帯事項等 | 医療人として相応しい身だしなみができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 医療人として相応しい言葉遣いができる | A・B・C・D・E |
| 時間や約束事を守ることができる | A・B・C・D・E |
| 臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる | A・B・C・D・E |
| 実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる | A・B・C・D・E |
| 実習に際して目的意識をもって臨むことができる | A・B・C・D・E |
| 実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる | A・B・C・D・E |
| 守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設などを清潔に保つことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる | A・B・C・D・E |

1. 必ず実施させる行為：病理学的検査

　　該当項目なし

2. 必ず見学させる行為：病理学的検査

| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| --- | --- | --- | --- |
| 精度管理 | 標準作業手順書(SOP)の目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 試薬管理の概要を説明できる | A・B・C・D・E |
| 外部精度管理の種類とその必要性を説明できる | A・B・C・D・E |
| 代表的な内部精度管理の種類と方法について説明できる | A・B・C・D・E |
| 適切な検体ブロック・標本であるかの判断ができる | A・B・C・D・E |
| 内部精度管理のフローと意義を説明できる | A・B・C・D・E |
| 臓器切り出しと  臓器写真撮影 | 検体と受付番号の確認ができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 臨床所見に応じた写真撮影の方法と注意点を説明できる | A・B・C・D・E |
| 適切な切り出し部位の説明ができる | A・B・C・D・E |
| コンタミネーション対策を説明できる | A・B・C・D・E |
| 取り扱う試薬の危険性を理解し、それに準じた行動がとれる | A・B・C・D・E |
| 迅速標本作成  から報告 | 凍結組織標本作製の目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 検体と受付番号の確認ができる | A・B・C・D・E |
| 標本作製の手順を説明できる | A・B・C・D・E |
| 包埋・凍結法における手技と注意点を説明できる | A・B・C・D・E |
| クリオスタットによる薄切法とその後の処理を説明できる | A・B・C・D・E |
| 感染対策を説明することができる | A・B・C・D・E |

３. 実施させることが望ましい行為：病理学的検査

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| HE染色や  特殊染色検査 | 検体と受付番号の確認ができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 染色前処理について説明できる | A・B・C・D・E |
| HE染色の目的・原理を説明できる | A・B・C・D・E |
| HE染色を適切に実施できる | A・B・C・D・E |
| 染色後処理が実施できる | A・B・C・D・E |
| 代表的特殊染色の目的・原理・注意点・染色結果を説明できる | A・B・C・D・E |
| 病理標本観察 | 臓器別に正常の組織像が説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 細胞診  標本作成と鏡検 | 検体と受付番号の確認ができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 検体別の適切な処理方法を説明できる | A・B・C・D・E |
| 感染対策を説明できる | A・B・C・D・E |
| 鏡検を行い、良悪性の判断ができる | A・B・C・D・E |
| 鏡検を行い、組織型の推定ができる | A・B・C・D・E |

自己評価基準書（検体検査：生化学的検査）

臨地実習施設名：

分野別指導者：

学生氏名：

実習期間：　　　　　　　 年　　　月　　　日（　　　）　　～　 　　年　　　月　　　日（　　　）

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等：共通項目

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 臨地実習の  注意・態度・心得・付帯事項等 | 医療人として相応しい身だしなみができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 医療人として相応しい言葉遣いができる | A・B・C・D・E |
| 時間や約束事を守ることができる | A・B・C・D・E |
| 臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる | A・B・C・D・E |
| 実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる | A・B・C・D・E |
| 実習に際して目的意識をもって臨むことができる | A・B・C・D・E |
| 実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる | A・B・C・D・E |
| 守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設などを清潔に保つことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる | A・B・C・D・E |

1. 臨地実習において必ず実施させる行為：生化学的検査

　　該当項目なし

2. 必ず見学させる行為：生化学的検査

| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| --- | --- | --- | --- |
| 精度管理 | 標準作業手順書(SOP)の目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 測定結果のチェック方法について説明できる | A・B・C・D・E |
| 異常反応やパニック値への対応について説明できる | A・B・C・D・E |
| 外部精度管理の種類とその必要性を説明できる | A・B・C・D・E |
| 代表的な内部精度管理の種類と方法について説明できる | A・B・C・D・E |
| 適切な検体であるかの判断ができる(溶血、フィブリン析出など） | A・B・C・D・E |
| 内部精度管理のフローと意義を説明できる | A・B・C・D・E |
| メンテナンス  作業 | 日々に行うメンテナンスの目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 定期的なメンテナンスの項目と必要性を説明できる | A・B・C・D・E |

3. 実施させることが望ましい行為：生化学的検査

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 血液ガス  分析検査 | 検体の確認ができる（氏名、凝固、保存状態等） | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 検体を適切に取り扱うことが出来る | A・B・C・D・E |
| 測定結果のチェック法について説明できる | A・B・C・D・E |
| 異常反応やパニック値への対応について説明できる | A・B・C・D・E |

〔評価基準〕

|  |  |
| --- | --- |
| 評価 | 実技評価 |
| A | 他の学生に教えられる |
| B | すべて自分でできる |
| C | ひと言ヒントがあれば自分でできる |
| D | 模範を見せてもらえればその通りに出来る |
| E | 全てを一緒にやってもらえれば出来る |

自己評価基準書（検体検査：免疫学的検査）

臨地実習施設名：

分野別指導者：

学生氏名：

実習期間：　　　　　　　 年　　　月　　　日（　　　）　　～　 　　年　　　月　　　日（　　　）

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等：共通項目

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 臨地実習の  注意・態度・心得・付帯事項等 | 医療人として相応しい身だしなみができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 医療人として相応しい言葉遣いができる | A・B・C・D・E |
| 時間や約束事を守ることができる | A・B・C・D・E |
| 臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる | A・B・C・D・E |
| 実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる | A・B・C・D・E |
| 実習に際して目的意識をもって臨むことができる | A・B・C・D・E |
| 実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる | A・B・C・D・E |
| 守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設などを清潔に保つことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる | A・B・C・D・E |

1. 臨地実習において必ず実施させる行為：免疫学的検査

　　該当項目なし

2.　必ず見学させる行為：免疫学的検査

| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| --- | --- | --- | --- |
| 精度管理 | 標準作業手順書(SOP)の目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 測定結果のチェック方法について説明できる | A・B・C・D・E |
| 異常反応やパニック値への対応について説明できる | A・B・C・D・E |
| 外部精度管理の種類とその必要性を説明できる | A・B・C・D・E |
| 代表的な内部精度管理の種類と方法について説明できる | A・B・C・D・E |
| 適切な検体であるかの判断ができる(溶血、フィブリン析出など） | A・B・C・D・E |
| 内部精度管理のフローと意義を説明できる | A・B・C・D・E |
| メンテナンス  作業 | 日々に行うメンテナンスの目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 定期的なメンテナンスの項目と必要性を説明できる | A・B・C・D・E |

3.　 実施させることが望ましい行為：免疫学的検査

該当項目なし

〔評価基準〕

|  |  |
| --- | --- |
| 評価 | 実技評価 |
| A | 他の学生に教えられる |
| B | すべて自分でできる |
| C | ひと言ヒントがあれば自分でできる |
| D | 模範を見せてもらえればその通りに出来る |
| E | 全てを一緒にやってもらえれば出来る |

自己評価基準書（その他）

臨地実習施設名：

分野別指導者：

学生氏名：

実習期間：　　　　　　 年　　　月　　　日（　　　）　　～　 　　年　　　月　　　日（　　　）

臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等：共通項目

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| 臨地実習の  注意・態度・心得・付帯事項等 | 医療人として相応しい身だしなみができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 医療人として相応しい言葉遣いができる | A・B・C・D・E |
| 時間や約束事を守ることができる | A・B・C・D・E |
| 臨地実習指導者の指示に適切に答えることができる | A・B・C・D・E |
| 実習先のスタッフと良好なコミュニケーションがとれる | A・B・C・D・E |
| 実習に際して目的意識をもって臨むことができる | A・B・C・D・E |
| 実習先の患者に対して不快感を与えない態度が取れる | A・B・C・D・E |
| 守秘義務・個人情報保護遵守に注意を払うことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設などを清潔に保つことができる | A・B・C・D・E |
| 実習施設の医療機器や備品などについて大切に取り扱うことができる | A・B・C・D・E |

1. 臨地実習において必ず実施させる行為：その他

　　該当項目なし

2.　必ず見学させる行為：その他

| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| --- | --- | --- | --- |
| 検査前の患者への説明（検査手順含む） | 同意書の作成と管理について説明ができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 挨拶、敬語など社会人として相応しい振る舞いについて説明ができる | A・B・C・D・E |
| 患者への声かけの仕方について説明できる | A・B・C・D・E |
| 患者の本人確認の方法について説明できる | A・B・C・D・E |
| 患者の安全に配慮し検査室に誘導する方法について説明ができる | A・B・C・D・E |
| 患者を不愉快にさせない接遇について説明ができる | A・B・C・D・E |
| 患者の様子・反応を確認しながらの説明方法について説明ができる | A・B・C・D・E |
| 患者の理解度を推測して説明方法について指導を受け、説明ができる | A・B・C・D・E |
| チーム医療（NST・ICT・  糖尿病療養指導） | 各チームを見学参加し、業務内容が説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 各チームにおける臨床検査技師の関わりを説明できる | A・B・C・D・E |
| スタンダードプリコーションを含む院内感染対策・方法等を説明できる | A・B・C・D・E |
| NSTにおいて低栄養者の抽出方法・項目について説明できる | A・B・C・D・E |
| NSTにおいて栄養療法について説明できる。 | A・B・C・D・E |
| 糖尿病およびその合併症について説明できる | A・B・C・D・E |
| SMBGの測定注意点と意義について説明できる | A・B・C・D・E |
| 検体採取 | 各検体採取部位の解剖学的特徴を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 患者心理に配慮した接遇について説明できる | A・B・C・D・E |
| 患者の安全に配慮し検査室に誘導できる | A・B・C・D・E |
| スワブの持ち方など器具取り扱いの注意点が説明できる | A・B・C・D・E |
| 疾病や患部の特性に応じた適切な採取方法について説明できる | A・B・C・D・E |
| 検体採取における合併症について説明できる | A・B・C・D・E |
| 感染管理および医療安全対策について説明できる | A・B・C・D・E |
| 微生物検査の検体保存容器と保存方法を説明できる | A・B・C・D・E |
| 検体採取の適切な実施方法を説明できる（遺伝子検査含む） | A・B・C・D・E |
| 消化管内視鏡  検査 | 消化管内視鏡検査の一般的な目的を説明できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 患者心理に配慮した接遇について説明できる | A・B・C・D・E |
| 患者の安全に配慮し検査室に誘導できる | A・B・C・D・E |
| 器具取り扱いの注意点が説明できる | A・B・C・D・E |
| 疾病や患部の特性に応じた適切な採取方法について説明できる | A・B・C・D・E |
| 検体採取における合併症について説明できる | A・B・C・D・E |
| 感染管理および医療安全対策について説明できる | A・B・C・D・E |
| 検体保存容器と保存方法を説明できる | A・B・C・D・E |
| 検体採取の適切な実施方法を説明できる（遺伝子検査含む） | A・B・C・D・E |

3. 実施させることが望ましい行為：その他

| 一般目標 | 行動目標 | 行動目標評価 | 一般目標評価 |
| --- | --- | --- | --- |
| 採血室業務  （採血行為を除く） | 採血に適した清潔な身だしなみを整えることが出来る（爪や清潔な白衣等）） | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 挨拶、敬語など社会人に相応しい振る舞いがとれる | A・B・C・D・E |
| 自分から患者に声かけ（挨拶を含む）ができる | A・B・C・D・E |
| 患者の本人確認ができる | A・B・C・D・E |
| 患者の様子や反応を確認しながら検査説明ができる | A・B・C・D・E |
| 採血器具の適切な使用方法を理解し、清潔状態を保って安全に準備できる | A・B・C・D・E |
| 解剖学的に血管・神経走行を理解し、採血に適した安全な静脈を選択できる | A・B・C・D・E |
| 針先の清潔、安全を保っての採血行為について説明できる | A・B・C・D・E |
| 採血後の血液検体の処理を適切に実施できる（分注、混和・氷冷など） | A・B・C・D・E |
| 採血手技全体において、患者状態に合わせた声掛けができる | A・B・C・D・E |
| 採血後の止血を適切に行える  （抗凝固剤使用の確認、皮膚の状態に合わせた止血パッチの選択等） | A・B・C・D・E |
| 採血中の容態急変に備えた観察・行動について実施できる | A・B・C・D・E |
| 採血禁忌（シャント側・オペ側・点滴側など）を理解できる | A・B・C・D・E |

〔評価基準〕

|  |  |
| --- | --- |
| 評価 | 実技評価 |
| A | 他の学生に教えられる |
| B | すべて自分でできる |
| C | ひと言ヒントがあれば自分でできる |
| D | 模範を見せてもらえればその通りに出来る |
| E | 全てを一緒にやってもらえれば出来る |

臨地実習自己評価（総合）

臨地実習施設名：

臨地実習指導者：

学生氏名：

実習期間：　　　　　　　年　　　月　　　日（　　　）　　～　 　　年　　　月　　　日（　　　）

提出日： 　　 　　年　　　月　　　日（　　　）

|  |  |
| --- | --- |
| **総　合　評　価** | **A　・　B　・　C　・　D　・　E** |
| 分野別評価 | |
| 臨地実習の注意・態度・心得・付帯事項等 | A　・　B　・　C　・　D　・　E |
| 生理学的検査 | A　・　B　・　C　・　D　・　E |
| 検体検査：血液学的検査 | A　・　B　・　C　・　D　・　E |
| 検体検査：尿・糞便等一般検査 | A　・　B　・　C　・　D　・　E |
| 検体検査：輸血・移植検査 | A　・　B　・　C　・　D　・　E |
| 検体検査：微生物学的検査 | A　・　B　・　C　・　D　・　E |
| 検体検査：病理学的検査 | A　・　B　・　C　・　D　・　E |
| 検体検査：生化学・免疫学的検査 | A　・　B　・　C　・　D　・　E |
| その他：検査前の患者への説明（検査手順含む） | A　・　B　・　C　・　D　・　E |
| その他：チーム医療（NST,ICT,糖尿病療養指導） | A　・　B　・　C　・　D　・　E |
| その他：検体採取 | A　・　B　・　C　・　D　・　E |
| その他：消化管内視鏡検査 | A　・　B　・　C　・　D　・　E |
| その他：採血室業務 | A　・　B　・　C　・　D　・　E |